

我ら桜陽人

小樽市議会議員

高校51期 卒業 面野 大輔

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

これまで高校生活の三年間、共に過ごした仲間との楽しい思い出やうれしかったこと、また辛かったことや悲しい出来事など思い返すとどれもかけがえのない思い出や経験になったことと思います。

私の桜陽高校在学中のことを思い返してみ



潮ねりこみ

ると、現在の新校舎ではなく古い校舎でしたし、記念館という建物があり、桜陽祭ではその記念館でクラスステージを発表したり、有志バンドが演奏していました。体育館はちょうど新設された新しい体育館で授業をしたり、球技大会で奮闘した記憶があります。そんな高校生活を送った仲間とはいまでも交流があり大切な財産です。桜陽高校卒業後は小樽市内のガソリンスタンドの社員として働いたり、パッケージ卸会社の営業部で全道各地を走り回り10代から20代は仕事を通して様々な経験をさせてもらうことができました。その後30代を迎え、古くからの先輩が政治の道を志すということで2011年の地方統一自治体選挙のお手伝いをしました。この年は東日本大震災の大きな被害を受けたことも合間つて、政治の世界で民間企業とは一味違う世界を見ることができました。ありきたりな話ですが、それまで自身は政治やまちづくりのことに関してほとんど興味はなく、他人事でした。しかし、その時の経験や関係者の話を聞いているうちに少しずつ自分の住んでいる『小樽のまち』について考え始めるようになりました。そして2014年11月に私を奮起させる出来事が小樽で起こりました。『小樽協会病院・新規分娩休止』というニュースが飛び込んできました。私たちの世代が生まれた頃には市



選挙



街頭演説

内の町中に産婦人科があり、妊婦が徒歩圏内で通院できる病院がたくさんあったと記憶していました。しかし、その報道がされた2014年頃には小樽市内で赤ちゃんを産める施設が協会病院と一件の個人病院だけの状況でした。当時500人以上の出生数を数える小樽では到底一件の個人病院ではカバーしきれない他、普通分娩以外のリスクの高いお産は定期検診の時点で最寄りである札幌への検診を薦められるなどデリケートな体調と精神状態である時期に妊婦は苦勞して出産に臨まなければならない厳しい状況へと変わってしまう危惧を感じました。そんな状況を変えるために自分は何か出来ないか悩み、仲間や先輩たちに相談し、2015年春に



雪あかりの路出前説明会



雪あかりの路台湾学生チームへの説明会

も小樽で安心して子どもを育てられる環境の整備に関して取り組みを進めていきたいと思っています。

現在も私は小樽市議会議員として仕事をしていきます。桜陽高校の皆さんとは特に『小樽雪あかりの路』で接する機会が多く、また例年多くの生徒さんにご協力をいただいていることに改めて感謝を申し上げます。一般的には市議会議員の仕事は分かりにくかったり見えない場合が多いですが、小樽市内の課題の調査や他の自治体の先進事例の研究だったり、時には町内会や商店街などの地域の課題解決に向けた協議を市役所の各セクションと調整したり、市内で催される行事やイベントのお手伝いだったり仕事幅は多岐に渡ります。これからも大好きな小樽のまちにみんなが住み続けたいと思えるようなまちづくりを進めていきたいと思っています。皆さんの将来には無限の可能性が秘められています。桜陽高校で学び経験したこと、大切な仲間や恩師と出会ったこと、今後の皆さんが生きていく上で大切な財産となることと思います。卒業後は小樽に残る人、地方へと移らなければならぬ人、いろいろな進路があることと思いますが、ご自身で選択し進む先に成功が実るよう心から願っています。

ご卒業おめでとうございます！